

Learning Assistant

LA活動報告

今年も学生企画の LA合宿研修を開催しました

11月12日(土)・13日(日)の両日、関西大学高槻キャンパス高岳館を会場に、第9回目のLA合宿研修が開催され、学生18名、教員3名、職員2名が参加しました。本学のLAには業務用マニュアルがありません。マニュアルがあると、そこに書かれていることしか見なくなり、書かれていないことに思いが及ぶことがなくなるのが懸念されるため、意図的に作成しないようにしているからです。マニュアルを持たないLAは、どのように授業の運営や受講生と関わっていくのか、先輩や同期、場合によっては卒業生にも相談しています。このような関係が日常的にあるのは、合宿やそのほかの研修などを通してLAの間に紐帯が形成されているからです。今回も今までに培われた紐帯を確認し、今後、さらにそれが豊かに力強く育っていくことを

目的に研修合宿が実施されました。その内容も方法も全て学生自身が企画したものです。

近年、学生アシスタントを任用する大学が増えています。その学生アシスタント自身が自らの研修を企画・開催する大学は本学だけです。

今回は、卒業を控えた四年生が後進を育成することに十分な配慮を施しており、ホスピタリティが関西大学LAの誇るべき伝統になりつつあることを実感しました。私の恩恵に浴した学生の感想を紹介します。「私は今回のLA合宿は運営委員という形で参加でした。去年のLA合宿とはまた違うワークをしたいという気持ちがあり、たくさん考えて作らせてもらいました。運営委員のみならずと協力し、サポーターの先輩方の支えもあり、LA合宿を無事に

終わることができたと思います。また、運営委員というとてもいい経験ができ、私自身の新たな発見ができたと思います。何よりもLA合宿参加してくださった皆さんの楽しそうな姿を見られたことが一番の満足でした。」こうやって先輩から後輩へのリレーがより確かで豊かなものになっていくのだと思います。

(教育推進部 三浦真琴)



第7回交渉学ワークショップ 交渉学をリードするブレインの育成

新しく大阪の中心にオープンした関西大学梅田キャンパスにおいて、本学のスタディスキルゼミのLAとして活躍している学生、追手門学院大学で交渉学を学ぶ学生、本学卒業生を含む、富士ゼロックス社を中心とした社会人が総勢35名集い、大学生と社会人が協働で学ぶ交渉学ワークショップを開催しました。

社会人と大学生が協働でおこなう交渉学の研修は、関西地区では今回が初めてとなります。関西大学梅田キャンパスを拠点として、新たな企画をスタートできることはうれしい限りです。

研修内容は、本学において交渉学の非常勤講師をされている松木俊明氏より、交渉学の基本的概念、考え方、日常生活における活用方法についてミニレクチャーがありました。その後、実際のケースを使い、登場人物の置かれた状況を把握した後、ロールプレイ・シミュレーションによる対話型ワークをおこないました。ミニレクチャーで紹介された交渉学のポイントを

ロールプレイ・シミュレーションで実践して身体化をおこないました。その後、まとめとして、全体のふりかえりセッションをおこないました。最後に、社会人、学生のこれまでの交渉学の取り組みについて情報共有をしました。

今後は関西大学梅田キャンパスを拠点とし

て、今回の社会人参加者の皆さんと共に、本学の学生、関西地区の学生と社会人が共に展開していく交渉学のリーダー育成プロジェクトを邁進させ、関西地区での交渉学の啓蒙活動・普及に取り組んでいきたいと計画しています。

(教育推進部 山本敏幸)

日時：10月30日(日)13:30～17:00
場所：梅田キャンパス 701・705



ミニレクチャー



交渉の準備グループワーク



1対1の対話型ロールプレイシミュレーションワーク



From CTL事務局

私は4年ぶりに教務部門に復帰しましたが、その前の教務経験と言いますと、18年もの間、総合情報学部事務室に勤務しておりました。平成6年に開設された総合情報学部は、今こそ珍しくもない、SA・TA、授業評価アンケート、シラバス、 Semester制(春卒業と秋入学)、TOEFLによる英語習熟度別クラスなど、新学部の設置認可を受けるべく、当時としてはずいぶん斬新な教育システムを取り入れておりました。言

わば、教育の質保証が設置認可審査による「事前規制」でなされていた時代でした。まだ事務用PCもなく、ゆるやかな流れの教務しか知らない私にとって、これらの業務を遂行するには大変な苦勞がありました。その後、認証評価制度が義務化され、教育の質保証の「事後確認」も併せて必要となりました。これらの業務が肥大化していくなかで、時代のWeb化の波も容赦なく押し寄せてきて、教務業務は爆発的に増加してきました。

あれから22年、教育推進部が生まれ、教育開発

支援センターや教学IRプロジェクトなどの専門機関が組織され、教育の質保証に資するさまざまな教育システムが開発・導入されています。補助金の獲得のために、あるいは即戦力を期待する企業からのプレッシャーにより、結果的に質保証が行われてきたという側面も否めませんが、誰のための質保証なのか、それは当然ながら「学生」であり、これに異議を唱える者はいないでしょう。「スチューデントファースト」が教育の質保証の「根っこ」にあることを常に意識しつつ、これからも改革を続けていきたいと考えています。

(寛)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2016年12月22日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター